

重点事項2 財源の確保と経費の節減

No.	取り組み項目	現状及び目標	主管課	関係課	期間全体の目標額
9	⑤町債残高の縮減		財政課	全課	6,000万円の減
	現状と課題	実質公債費比率、将来負担比率を見ると毎年数値が上昇しており、弾力性のある健全な財政状態を目指すためには、借入金を減らし、将来負担を少なくしていかなければならない。			
	取り組みの内容	町債の新規発行を極力抑え、プライマリーバランス(公債費関連の歳入、歳出を除いた基礎的財政収支)の黒字化を維持していく。			
		(現状) 平成22年度末残高 218億円 (平成23年度末参考 213億円) (平成23年度決算確定により 209億円) (目標) 年度末町債残高縮減額(年度末町債残高) 平成24年度: 7億円(206億円) 平成25年度: 11億円(195億円) 平成26年度: 12億円(183億円) ※目標額は町債残高縮減に伴う利子分の減			

スケジュールと状況		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	出納整理期間	年度実績	進捗状況
24年度	スケジュール	補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 20,911,678千円 A 起債予定額(6月補正後=当初予算額) 1,083,600千円 B <元金償還予定額 1,756,148千円 C 年度末起債残高 A+B-C 2,023,913千円	補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 20,911,678千円 A 起債予定額(9月補正後) 1,536,632千円 B (当初予算額に対し 453,032千円増) <元金償還予定額 1,943,048千円 C (当初予算額に対し 186,900千円増) 年度末起債残高 A+B-C 20,505,262千円 B<Cの為プライマリーバランスは黒字を維持している。	新年度予算編成及び補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 20,911,678千円 A 起債予定額(12月補正後) 1,316,532千円 B (当初予算額に対し 232,932千円増) <元金償還予定額 1,943,048千円 C (当初予算額に対し 186,900千円増) 年度末起債残高 A+B-C 20,094,466千円 B<Cの為プライマリーバランスは黒字を維持している。	補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 20,911,678千円 A 起債予定額(3月補正後) 1,277,632千円 B (当初予算額に対し 194,032千円増) <元金償還予定額 1,945,812千円 C (当初予算額に対し 189,664千円増) 年度末起債残高 A+B-C 20,243,498千円 B<Cの為プライマリーバランスは黒字を維持している。	補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 20,911,678千円 A 起債予定額(3月補正後) 1,128,600千円 B 起債額 1,945,812千円 C 元金償還額 1,945,812千円 C 年度末起債残高 A+B-C 20,094,466千円	8億1,700万円(200億9,400万円)	<input checked="" type="checkbox"/> 予定以上 <input type="checkbox"/> 予定どおり <input type="checkbox"/> 遅れ
	実施内容	6月補正予算において、起債予定額に変更なし(当初予算のとおり、増額なし)	9月補正予算において、起債予定額変更 ・防火水槽整備事業費(15,700千円→10,400千円) ・救急自動車購入事業(17,600千円→28,800千円) ・臨時財政対策債(150,000千円→410,232千円) ・下水道事業借換(0→186,900千円)	12月補正予算において、起債予定額変更 ・公共下水道事業(336,000千円→115,900千円)	3月補正予算において、起債予定額変更 ・道路整備事業(93,200千円→69,400千円) ・救急自動車購入事業(28,800千円→25,700千円) ・公共下水道事業(115,900千円→107,000千円) ・相模川流域下水道事業(28,800千円→25,700千円)		※上記縮減額は、23年度決算確定による「209億円」をもとに算出したもの	
その他取り組み事項等								
次年度に向けた課題		次年度も普通交付税の交付団体と見込まれることから、臨時財政対策債の発行を予定しており、時点における町債残高をより一層注視する必要がある。						
単年度における取り組み結果としての効果額【参考数値】		1,634万円の減 (算出根拠) 平成24年度末と平成23年度末における起債残高を比較し、差分を縮減額としたうえで、その縮減額に係る利子の減を効果額としたもの(期間全体の目標額6,000万円は縮減額合計30億円に対し利子分2%で算出。平成24年度の縮減額は8億1,700万円のため、その2%で1,634万円としたもの)						

スケジュールと状況		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	出納整理期間	年度実績	進捗状況
25年度	スケジュール	補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 20,094,466千円 A 起債予定額(6月補正後=当初予算額) 1,039,900千円 B <元金償還予定額 1,850,310千円 C 年度末起債残高 A+B-C 19,284,056千円 B<Cの為プライマリーバランスは黒字を維持。	補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 20,094,466千円 A 起債予定額(9月補正後) 1,097,181千円 B (当初予算額に対し 57,281千円増) <元金償還予定額 1,850,310千円 C (当初予算額に対し 0千円増) 年度末起債残高 A+B-C 19,341,337千円 B<Cの為プライマリーバランスは黒字を維持している。	新年度予算編成及び補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 20,094,466千円 A 起債予定額(12月補正後) 1,102,681千円 B (当初予算額に対し 62,781千円増) <元金償還予定額 1,850,310千円 C (当初予算額に対し 0千円増) 年度末起債残高 A+B-C 19,346,837千円 B<Cの為プライマリーバランスは黒字を維持している。	補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 20,094,466千円 A 起債予定額(3月補正後) 1,267,281千円 B (当初予算額に対し 227,381千円増) 元金償還予定額 1,850,524千円 C (当初予算額に対し 214千円増) 年度末起債残高 A+B-C 19,511,223千円 B<Cの為プライマリーバランスは黒字を維持。	補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 20,094,466千円 A 起債額 786,881千円 B 元金償還額 1,850,524千円 C 年度末起債残高 A+B-C 19,030,824千円	10億7,000万円(190億3,000万円)	<input checked="" type="checkbox"/> 予定以上 <input type="checkbox"/> 予定どおり <input type="checkbox"/> 遅れ
	実施内容	6月補正予算において、起債予定額に変更なし(当初予算のとおり、増減なし)	9月補正予算において、起債予定額変更 ・消防自動車購入事業(56,700千円→42,800千円) ・臨時財政対策債(71,000千円→142,181千円)	12月補正予算において、起債予定額変更 ・公共下水道事業(101,200千円→106,700千円)	3月補正予算において、起債予定額変更 ・寒川駅北口地区土地区画整理事業(338,000千円→290,000千円) ・小谷小学校教室棟大規模改修事業(203,200千円→162,600千円) ・公共下水道事業(106,700千円→110,500千円) ・相模川流域下水道事業(38,800千円→37,100千円) ・(新規)寒川小学校南棟大規模改修事業(195,600千円) ・(新規)各小学校体育館非構造部材耐震工事業(55,500千円)		※上記縮減額は、24年度決算確定による「201億円」をもとに算出したもの	
その他取り組み事項等								
今後の課題		年度末町債残高については予定以上の進捗状況であるものの、次年度も普通交付税の交付団体となる場合には臨時財政対策債の発行が見込まれることから、時点における町債残高をより一層注視する必要がある。						
単年度における取り組み結果としての効果額【参考数値】		2,140万円の減 (算出根拠) 平成25年度末と平成24年度末における起債残高を比較し、差分を縮減額としたうえで、その縮減額に係る利子の減を効果額としたもの(期間全体の目標額6,000万円は縮減額合計30億円に対し利子分2%で算出。平成25年度の縮減額は10億7,000万円のため、その2%で2,140万円としたもの)						

スケジュールと状況		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	出納整理期間	年度実績	進捗状況
26年度	スケジュール	補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 19,030,824千円 A 起債予定額(6月補正後=当初予算額) 926,000千円 B <元金償還予定額 1,901,191千円 C 年度末起債残高 A+B-C 18,055,633千円 B<Cの為プライマリーバランスは黒字を維持。	補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 19,030,824千円 A 起債予定額(9月補正後) 876,000千円 B (当初予算額に対し 50,000千円減) <元金償還予定額 1,901,191千円 C (当初予算額に対し 0千円増) 年度末起債残高 A+B-C 18,005,633千円 B<Cの為プライマリーバランスは黒字を維持。	新年度予算編成及び補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 19,030,824千円 A 起債予定額(9月補正後) 876,000千円 B (当初予算額に対し 50,000千円減) <元金償還予定額 1,901,191千円 C (当初予算額に対し 0千円増) 年度末起債残高 A+B-C 18,005,633千円 B<Cの為プライマリーバランスは黒字を維持。	補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 19,030,824千円 A 起債予定額(3月補正後) 817,400千円 B (当初予算額に対し 108,600千円減) <元金償還予定額 1,902,545千円 C (当初予算額に対し 1,354千円増) 年度末起債残高 A+B-C 17,945,679千円 B<Cの為プライマリーバランスは黒字を維持。	補正予算編成においてプライマリーバランスに着目し、町債の新規発行抑制と町債残高の縮減に努める。 前年度末起債残高 19,030,824千円 A 起債額 549,700千円 B 元金償還額 1,902,545千円 C 年度末起債残高 A+B-C 17,677,979千円	13億3,000万円(177億円)	<input checked="" type="checkbox"/> 予定以上 <input type="checkbox"/> 予定どおり <input type="checkbox"/> 遅れ
	実施内容	6月補正予算において、起債予定額に変更なし(当初予算のとおり、増額なし)	9月補正予算において、起債予定額変更 ・臨時財政対策債(50,000千円→0千円)	12月補正予算において、起債予定額に変更なし	3月補正予算において、起債予定額変更 ・寒川駅北口地区土地区画整理事業(191,600千円→161,100千円) ・公共下水道事業(131,600千円→123,000千円) ・相模川流域下水道事業(33,700千円→24,200千円)		※上記縮減額は、25年度決算確定による「190億3,000万円」をもとに算出したもの	
その他取り組み事項等								
単年度における取り組み結果としての効果額【参考数値】		2,660万円の減 (算出根拠) 平成26年度末と平成25年度末における起債残高を比較し、差分を縮減額としたうえで、その縮減額に係る利子の減を効果額としたもの(期間全体の目標額6,000万円は縮減額合計30億円に対し利子分2%で算出。平成26年度の縮減額は13億3,000万円のため、その2%で2,660万円としたもの)						